2022 年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

幼稚園から大学院まで連なる総合学園としての関西学院は、その良さを生かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施するため、連携する学校の教職員から専門的な視点による意見をうかがうことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、中学部の学校評価が学院総合企画会議（短大・各学校内部質保証部会）において承認されましたので、ウェブサイト上で公表させていただきます。

本年度も、経年変化を見るために、引き続き「教育課程・学習指導」、「生徒指導」、「保健管理」、「保護者との連携」、「キリスト教主義教育の実践」、「特色ある教育の実践」「関西学院共通項目」、「その他（コロナ禍への対応）」を評価項目に設定しました。評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケート調査を行い、それぞれの立場からの意見を集めることによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、生徒 92.6%、保護者 80.5%、教員 92.5%となっております。

昨年度比、多数の項目で高い評価の割合が増えました。これは、コロナ禍の状況変化にともない従来の形に戻しつつ実践された教育活動への一定の評価と捉えています。他方、昨年度の当該「学校評価を終えて」に記載したように、コロナ禍を経たからこそ見直しや改善ができたであろう部面は依然として見てとることができるアンケート結果でした。

本年度も各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果を参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた方策を示し、自己点検・評価としました。また、上記のように、連携する学校の教職員からの意見も合わせて中学部の学校評価としてまとめています。

関西学院中学部は、学校評価を通じて自らその課題を探り、それに向き合って改善することによって、より充実した教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

2022 年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを、以下に掲載いたします。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

2023 年 4 月 14 日
関西学院中学部
部長　藤原康洋

学校評価

教育理念・使命・目標

中学部がめざす教育の目標
１．キリスト教に基づいた伝統ある人間教育を根本に置いて、「感謝・祈り・練達」の教育理念を大切にし、人の痛みをわかろうとする人間、他者を尊重し将来に夢を持って社会に貢献できる人間を育てる。
２．建学の精神を体得した生徒を育てることにより、将来、高等部、大学、さらに社会人として、リーダー的役割を果たせる人間を育てる。

2022 年度の評価項目

①教育課程・学習指導：全生徒に対して中学部がめざす水準の基礎学力を定着させるとともに、学力上位生徒に対して、興味関心に応じた発展的学習を行うため、学習課程の精査や教授力の向上をめざして設定している。
②生徒指導：生徒の社会的資質や行動力を高め、学校が生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることをめざして設定している。
③保健管理：生徒の身体面、精神面にかかわる項目として設定している。
④保護者との連携：生徒を育てるには学校教育と家庭教育に一貫性が必要である。そのため保護者と教員の連携が密になるように設定している。
⑤キリスト教主義教育の実践：建学の精神としてのキリスト教主義教育の充実をめざし設定している。
⑥特色ある教育の実践：中学部の特色として重点的に展開している授業や行事等の充実をめざし設定している。
⑦関西学院共通項目：スクールモットー“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成をめざし設定している。
⑧その他：コロナ禍の中で、学校が適切な対応がとれることをめざし設定している。
以上の８項目。

2022 年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【教育課程についての共通理解と連携】	自己評価	A
目標	教員による教育課程の全体像の理解		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●毎年、学習ガイドブックを作成し、生徒に対する教科学習へのガイダンスを行なっている。同時に教員もそこから各教科の概要を把握・理解できるように期待をしている。 ●学力推移調査等の外部試験の結果を全教員に開示することによって、客観的な学習到達状況を周知している。 ●非常勤講師も含め、教科担当者会議を行い、個別生徒の学習状況について情報交換を行っている。また、隔週の教員会議でも適宜、情報交換を行っている。 ●教員アンケート問 1「教員は、教育課程の全体を理解している。」の項目についての肯定的評価が 91.9%（昨年度 82.4%）と高い値を維持している。		
今後の方策	●本項目については、従前の取組を継続的に行うとともに、それが実効的に働くよう、研修的な取組も行う。 ●次年度は 3 学年とも BYOD を実施するので、教科横断的な取組や、各教科の目標・学習活動などについての情報交換を行う。		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【生徒の学力・体力の的確な把握】	自己評価	A
目標	外部テスト導入などを通した学力のより客観的な把握／教員による学力や体力評価についての理解向上		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●従来通り、定期試験だけでなく、小試験、口頭試問、口頭発表、課題提出、日々の学習活動への意欲等を含め、細やかな学力評価を行っている。 ●外部試験としては学力推移調査を行い客観的な学力把握に努めている。 ●日本漢字能力検定、実用英語技能検定を受検し、生徒らが意欲的に学力向上と学力把握に努めるよう、表彰等を行って、それらを奨励している。 ●外部試験などの結果を返す際、問題の解説にとどまらず、評価数値の持つ意味なども適宜、生徒に説明している。 ●生徒アンケート問 6「中学部は、自分の学力や体力を正しくつかんでくれている。」の項目について昨年度同様、83.0%（昨年度 80.8%）の生徒が肯定的評価をしている。 ●同旨の質問である保護者アンケート問 7「中学部は、生徒の学力や体力を適正に評価している。」でも昨年度同様、92.8%（昨年度 87.9%）の肯定的評価が得られている。 ●教員アンケート問 2「教員は外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている。」の項目について、肯定的評価が昨年度は 73.5%であったが、今年度は 86.5%と高い評価を得られた。		
今後の方策	●概ね、良好な結果が得られているので、従来の取組を継続的に行う。		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【各教科の特性に応じた授業の工夫】	自己評価	A
目標	教員自身による担当教科の特性の理解／より質の高い授業を目指しての教員による不断の研究／授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●従来通り、全教員に対して研修日を設定し、また個人及び教科研究費を支給し、研鑽の機会を確保している。 ●各教科で独自教材を活用し、基礎学力の定着をはかっている。 ●生徒アンケート問 8「授業は、さまざまな工夫が加えられていて分かりやすい。」について 81.4%の肯定的評価が得られており、昨年度の 83.7%から微減であるが、この傾向は数年来変わっていない。 ●教員アンケート問 3「教員は、自らが担当する教科の特性を理解している。」について、今年度の肯定的評価は 97.3%であった。昨年度は 94.1%であり、この傾向は数年来変わっていない。 ●教員アンケート問 4「教員は、質の高い授業をめざして、授業研究を不断に行っている。」に対する肯定的評価は 89.1%（昨年度 82.3%）、教員アンケート問 5「教員は、授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている。」に対する肯定的評価は 89.2%（昨年度 76.5%）である。 ●教員アンケート問 6「教員は、知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている。」に対する肯定的評価が 89.2%（昨年度 76.4%）であり、生徒アンケート問 8「授業は、さまざまな工夫が加えられていて分かりやすい」に対する肯定的評価も 81.4%と授業への評価は高い。		
今後の方策	・働き方改革を含め、各教員が自己研鑽を行えるような環境の整備を行う。		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【個々のニーズや興味関心に応じた授業展開】	自己評価	B
目標	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開／補習など特別な学習機会の提供／中学部と高等部との連携		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●英語の分割授業、数学の一部分割授業を導入し、授業内で個別生徒に対応できる機会を増やしている。 ●授業では、各教科、発展的、応用的内容を扱うよう努めている。 ●数学、英語では到達度の低い生徒に対し、補習を行っている。他教科においても個別的に遅れの目立つ生徒には、課題を課す等の対応を行っている。 ●生徒アンケート問 9、保護者アンケート問 8 の、補習等の機会が確保されているかについての項目では、生徒の肯定的評価が 87.0%（昨年度 82.8%）で、保護者の肯定的評価が 68.0%（昨年度 61.5%）である。生徒の評価と保護者の評価に乖離が見られる。		
今後の方策	●数学や英語の分割授業で、できる限り生徒の必要性に合わせた授業構築を行う。 ●生徒間の学力差が大きく、授業内容、進度の焦点を合わせにくくなっているのが現状である。到達度の低い生徒への対応を継続するとともに、学力が高く、学習意欲も旺盛な生徒の要求にも対応できるよう、習熟度別学習の幅広い導入を検討する。ただし、これの実現に向けた人的・財政的担保は必要である。 ●高等部で先行して実施されている、大学生による定期的な補習制度を中学部でも導入検討中であり、早期の実現を目指す。		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【課外活動の充実】	自己評価	A＋
目標	生徒会などの自治活動の充実／クラブ活動など課外活動の充実／課外活動が正課（学習）を妨げていないことの徹底		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●多くの生徒が、クラブ活動など課外活動へ意欲的に参加している。また、受験希望者対象の学校説明会などでも、アンケートや個別質問で課外活動への関心の高さがうかがわれる。 ●タッチフットボール部の全国大会優勝に代表されるように運動部全般が活躍している。また、文化部でも、理科部が第 22 回創造アイデアロボットコンテストで近畿大会に出場するなど活躍している。 ●生徒会活動全般を通じ、自治意識の涵養につとめている。 ●課外活動と学習の両立を図るため、従来どおり、定期試験前 1 週間はクラブ活動停止としている。 ●学習や家庭・地域での体験ができるよう、休暇中のクラブ活動日を、夏期休暇中は 18 日に制限し、冬期休暇中は停止しているのは従来通りであるが、今年度も文部科学省の部活動ガイドラインを遵守している。 ●一部のクラブ活動（2023 年 1 月現在 8 つのクラブ活動）で部活動指導員を導入し、より専門的な指導を行っている。 ●生徒アンケート問 4「学校に行くのが楽しい。」の肯定的評価が 87.6%で、生徒アンケート問 5「中学部の教育に満足している。」の肯定的評価が 84.8%である。保護者アンケート問 4「生徒は楽しんで学校に通っている。」の肯定的評価が 93.5%で、保護者アンケート問 5「中学部の教育に満足している。」の肯定的評価が 88.4%である。これは正課外の活動への期待、評価も高いことを示していると考えられる。		

	●生徒アンケート問 10「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。」の肯定的評価が 79.1%と、昨年度の 69.6%から大幅に増えた。これは生徒会によるハンディファン使用許可、セーター登校許可の意見のとりまとめと教師会への働きかけを生徒が自治活動として評価した結果であると考えられる。
今後の方策	●ここ数年来、アンケートでは概ね良好な評価が得られているので、従来通りの取組を継続していく。

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【基本的生活習慣の確立】	自己評価	B
目標	挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーの指導／整理整頓や環境美化の指導		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●挨拶や時間厳守、身だしなみなどといった基本的社会マナーについては、全ての教育活動の場面において、全教員で重点的に指導している。 ●整理整頓については、担任やクラブ顧問が私物管理の在り方を指導したり、忘れ物などを安易に放置せず、再発防止のためにその都度指導したりすることで適宜啓発している。 ●環境美化については、風紀美化委員会と連携しながら、教室の掃除や廊下の汚れを取るなどして、生徒と教員が一体となり校内美化に努めている。 ●生徒アンケート問 13、保護者アンケート問 13、教員アンケート問 12 の基本的社会マナーについての項目では、肯定的評価が生徒 91.0%、保護者 88.9%と概ね高かった。また、教員の肯定的評価が昨年度の 67.6%から 81.1%と高くなった。教員が共通の認識を抱いたうえで、一体となり指導を続けてきた成果が発揮されつつあるのではないかと考えられる。 ●近年課題となっていた教員アンケート問 13「中学部は、生徒に整理整頓や環境美化に努めさせている。」の項目における肯定的評価は、昨年度の 53.0%から 75.7%と高くなった。日々生じる些細な事案に対しても、誠実かつ丁寧に対応していくことを心がけるようになった成果が表れたのではないかと考えられる。		
今後の方策	●基本的社会マナーについては、全教員が共通の認識を抱いたうえで、全ての教育活動の場面において、細やかかつ丁寧に指導していく。 ●整理整頓や環境美化については、風紀美化委員会と連携しながら、生徒自らが美化意識を育み、具体的な実践に移していけるように、また、新型コロナウイルスの感染状況を判断しながら、今後は校内から地域へとその視野を広げていけるように指導していく。		

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【自主自律の精神の育成】	自己評価	B
目標	HR（学級活動）における自主自律の精神の育成／学校行事における班活動などを通した自主自律の精神の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●学級活動においては生徒が、学校行事においては生徒会役員がリーダーとなり、班や委員会を組織するなどして、その企画・運営を自主的に行っている。 ●代議員会および委員会活動の活性化に重点を置き、学級活動および生徒会活動を中心に自主自律の精神を育んでいる。 ●生徒アンケート問 10「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。」の肯定的評価が、昨年度の 69.6%から 79.1%と高くなった。また、教員アンケート問 14「クラス担任は、学級活動において生徒の自主自律の		

	精神の育成に努めている。」の肯定的評価が、昨年度の 73.5%から 86.5%と高くなった。ここ数年、新型コロナウイルスの感染状況から学級活動や学校行事の中止や規模縮小を余儀なくされてきたが、今年度は感染対策を講じながら従来の実施形態に戻していけたことで、生徒が活躍出来る場面が増えたことがその要因ではないかと考えられる。 ●保護者アンケート問 14「中学部は、生徒の自主自律の精神を育成している。」の肯定的評価が 89.2%、教員アンケート問 9「中学部は、生徒会などの自治活動が生徒によって盛んに行われるように配慮している。」の肯定的評価も 91.9%と高かった。コロナ禍による制限の中でも、生徒会役員を中心に生徒が自主的に学校行事などに取り組んできた姿勢が評価されたのではないかと考えられる。
今後の方策	●学級活動や学校行事において、その企画・運営を生徒が自主的・主体的に行えるように指導する中で、生徒の自主自律の精神を育成していく。 ●生徒会活動や委員会活動を活性化し、より良い学校生活を過ごしていくために自分達で何をどうしていくべきか、場合によっては何をどう変えていくべきかを、生徒が自ら判断し、行動に移していける力を身につけさせる。 ●生徒指導部と生徒会、代議員会との連携をこれまで以上に深め、年度に縛られず、継続性を持った生徒会活動の在り方を模索していく。

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【問題行動への対応】	自己評価	B
目標	生徒の問題への対応についての教員間での共通理解／生徒の問題行動の早期発見／問題行動に対しての適切な指導・訓戒		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●生徒の問題への対応についての教員間での共通理解については、生徒指導部内に情報共有フォルダを作成し、指導案件の報告を随時共有出来るようにしている。さらに、共通理解のための教員用手引きを用いて、共通理解と意思統一を進めている。 ●生徒アンケート問 14、保護者アンケート問 15、教員アンケート問 16 の、生徒の問題行動に対して適切に対応しているかについての項目では、肯定的評価が生徒 85.1%、教員 91.9%と概ね高かった。生徒の問題行動に対して「迅速・適切・誠実」に向き合ってきた姿勢が評価されたのではないかと考えられる。一方で、保護者の肯定的評価は 82.8%と、生徒・教員に比べて少し低くなっている。問題行動に至るまでの経緯や指導・対応方針などを、これまで以上に迅速かつ丁寧に説明していくことが求められているものだと捉えている。 ●近年課題となっていた教員アンケート問 15「生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある。」の項目については、肯定的評価が 2019 年度の 69.7%から今年度 81.0%まで上がってきた。情報共有フォルダを活用することが定着したと共に、生徒指導部を中心とした関係教員間での報告・連絡・相談の機会を意図的に増やしてきたことの効果が表れているのではないかと考えられる。		
今後の方策	●共通理解のための教員用手引き更新にむけた検討、情報共有フォルダの活用、教師会での生徒指導部からの報告の精緻化などを進めることにより、生徒の問題への対応についての教員間での共通理解を深めていく。 ●生徒の問題行動の早期発見、また問題行動に対する適切な指導にむけて、保護者と教員の連携を深めるためにも、具体的な対応の在り方を改めて整理すると共に、担任やクラブ顧問、当該学年団と生徒指導部が密に連携していくことで、迅速かつきめ細やかに指導・対応していく。		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【心身の健康管理】	自己評価	A
目標	健康診断の定期的な実施と事後措置／健康状態の把握／健康相談／感染症の予防		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●2 月に新入生健康診断を、全校定期健康診断を 5 月に実施した。新入生健康診断・定期健康診断の受診率は 98.2%だった。 ●体育や部活動が盛んな本校の特性から、心臓突然死予防のため、特に心臓検診には力を入れており、心電図検査を毎年全学年に実施している。事後措置は、心臓検診問診表、部活動の有無、運動強度、保健調査を基に学校医が再判定を行い、心臓検診の質の向上に努めている。要再検となった生徒には「学校生活管理指導表」の提出を求め、主治医の判定による運動の可否等の状況を教員と情報共有している。教員アンケート問 17「中学部は、生徒に対し健康診断を定期的に実施し、事後措置を適切に行っている。」の項目についての肯定的評価は 97.3%だった。 ●心理的な課題を抱える生徒支援について、週 1 回サポートルーム会議を実施している。学年主任、支援コーディネーター、支援員、養護教諭、カウンセラーで情報共有を行っている。生徒アンケート問 15、保護者アンケート問 16、教員アンケート問 18 の、「生徒の健康について適切に把握しているか」についての項目において、生徒の 81.1%、保護者の 91.3%、教員の 97.3%から肯定的評価を受けた。 ●今年度も新型コロナウイルス感染症への対策に力を入れて取り組んだ。「保健だより」から情報を発信し、学校医指導のもと初等部と高等部とも連携をとり、感染症対策に取り組みながら教育活動を行ってきた。その結果、保護者アンケート問 17「中学部は、生徒が健康で安全な学校生活が送れるよう感染症の予防に配慮している。」の項目について、95.9%の肯定的評価を受けた。		
今後の方策	●今後も学校行事を再開させつつも、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、最善の対応が取れるように努力していきたい。 ●心理的な課題を抱える生徒については、学校だけでは対応困難なケースが見受けられる。外部機関（医療・福祉）とも連携を取りながら生徒を支援できる体制を作っていきたい。また、生徒の支援については個々の教員の経験に留まるのではなく、中学部という組織の中に経験が蓄積される仕組みを構築していきたい。		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【怪我・急病発生時の対応】	自己評価	A
目標	怪我・急病発生時の迅速で適切な対応		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●平均来室者数は、内科的理由が 74.4 件/月、外科的理由が 93.3 件/月、その他の理由が 5.8 件/月である。（2022 年 12 月末現在） ●日常の疾病、怪我については迅速に、適切に処置できるように努めている。 ●病状報告とその対応については、保護者と連携、相談しながら行っている。 ●学校生活の中で配慮が必要となる生徒の病状とその対応については、教員間で情報を共有している。 ●生徒アンケート問 17、保護者アンケート問 18、教員アンケート問 20 の、怪我・急病発生時の対応についての項目では、昨年度と同様に生徒の 90.9%、保護者の 96.4%、教員の 100%から肯定的評価を受けている。		

今後の方策	●今後も怪我・急病発生時の対応、疾病予防については、迅速かつ適切に対応できるように取り組んでいきたい。

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【保護者との懇談の実施】	自己評価	A
目標	教育内容に関する保護者との意見交換／クラス担任と保護者との面談の実施／クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談の実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●コロナ禍になって激減していたクラス・クラブの保護者会・対面の保護者面談がコロナ禍前の頻度まで戻りつつある。 ●コロナ禍で対面での話し合いができなかった今までの時間を埋めるべく、担任・クラブ顧問ともに、保護者と信頼関係を築いていけるように、丁寧な説明を心掛けた。 ●保護者アンケートの問 21「中学部は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。」に対して「強くそう思う」の回答が、昨年度の 25.5%から 34.8%に増えている。		
今後の方策	●対面の保護者面談、コロナ禍になって激減していたクラス・クラブの保護者会がコロナ禍前の頻度まで戻りつつある。このまま、対面でできる会を、元の頻度・規模になるまで増やしていきたい。		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【学校運営についての保護者（PTA）との協力状況】	自己評価	A
目標	PTA と協力した学校行事の運営／PTA 幹事会等の適切な開催		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●昨年度は対面で行うことが難しかった年間 5 回の PTA 幹事会を、コロナ禍前と同じようにすべて対面で行うことができた。 ●文化祭では、一昨年度から停止していた店舗販売を、PTA グッズだけではあるが行うことができ、来場者に販売することができた。食品・飲料の店舗販売は今年度もできなかったが、昨年度から始めた予約販売をより多くの品目で行うことができた。 ●保護者アンケートの問 19「中学部は、行事などの際に適宜 PTA と協力してこれを実施している。」に対して「強くそう思う」の回答が、昨年度の 24.0%から 42.5%へとかなり増えた。 ●保護者アンケートの問 20「中学部は、PTA 幹事会等、PTA との協議会を適切に開催している。」に対して「強くそう思う」の回答が、昨年度の 25.0%から 41.2%に増えている。		
今後の方策	●新型コロナウイルスの感染状況を判断しながら、次年度は文化祭において以前のような各地区による飲料・食品の対面による店舗販売を再開させたい。 ●新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止が続いているマラソン大会が行われれば、PTA による完走者へのスポーツ飲料の準備や手渡しなど、目に見える形での PTA と生徒との関わりの機会を積極的に設けていきたい。		

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の理念の共有】	自己評価	A
目標	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有		

具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●中学部教育の五本柱の一つとして、礼拝や聖書科授業、様々な行事を通してキリスト教主義教育のプログラムを展開し、その理念を生徒・保護者・教員が共有できるように機会を設けている。礼拝については、休校期間中もオンラインによるリモートでの礼拝を行った。そのオンラインによる礼拝は、ウェブサイトでオンデマンドとして繰り返し視聴することが可能であり、これまでにはなかった礼拝の形として定着している。保護者に対する「PTA 聖書を学ぶ会」は毎回、対面と Zoom を利用してのリモートとのハイブリッド形式で開催した。これも定着した感がある。保護者が中学部のキリスト教主義教育の理念に接する機会となっている。 ●生徒アンケート問 18「日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。」の項目についての肯定的評価は 89.9%（昨年度 87.1%、一昨年度 85.7%）、また問 19「キリスト教に関する理解が深まっている。」の項目についての肯定的評価は 85.2%（昨年度 82.4%、一昨年度 80.8%）といずれも過去 3 年間で最高値となっている。保護者アンケート問 22「中学部は、キリスト教主義教育を適切に行っている。」の項目についての肯定的評価も 97.4%（昨年度 95.9%、一昨年度 96.0%）で過去 3 年間で最高値となっている。コロナ禍の中でありつつも、生徒や保護者のキリスト教主義教育への理解の肯定的評価が徐々に高い数値となっていることは評価できる。教員アンケート問 25「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している。」に対する肯定的評価が 86.5%（昨年度 73.5%、一昨年度 82.4%）と昨年に比べて 13 ポイントも高かったことは評価できる。
今後の方策	●中学部は今年創立 133 年を迎え、関西学院の建学の精神であるキリスト教の精神を受け継ぐ学校として、時代の変化に適応したキリスト教主義教育のあり方を検証し、オンラインでの礼拝の配信など、具体的でかつ新しい教育プログラムを展開する。 ●教員に対して、礼拝やさまざまな研修の機会を通して、理念を共有するための研修を継続的に実施する。また、学院内の関西学院のキリスト教主義教育にかかわる行事等への積極的な参加を呼びかける。

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の推進】	自己評価	A
目標	学校の重要な柱としての礼拝の遵守／生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●キリスト教主義教育の実践として、毎日の礼拝の時間を中心に生徒と教員が共にキリスト教精神にふれるプログラムを実施し、生徒には聖書科の授業や様々な学校行事を中心にキリスト教的人間理解を育成する機会を設けている。 ●今年度は当初から全校礼拝を実施することができ、讃美歌も全校生で歌唱する形をとることができたことが何よりもの喜びとなった。その喜びがアンケート結果にも表れているといえる（生徒アンケート問 18 と問 19）。生徒たちが自主的に取り組む生徒礼拝も毎月数回行い、毎週 1 回の早天礼拝も定着して行われている。 ●教員アンケート問 26「中学部は、礼拝を重要な柱として守っている。」の肯定的評価は 91.9%（昨年度 82.4%、一昨年度 97.0%）と昨年度より大幅に高くなり、2 年前までの数値に近づきつつある。中学部のキリスト教主義教育における礼拝が重要な柱として受け止められていることは明白である。教員アンケート問 27「中学部は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している。」の肯定的評価は 89.2%（昨年度 82.3%、		

	一昨年度 76.5%）と 3 年間で最高の数値となった。
今後の方策	●礼拝の奨励では教員を中心にしつつ、各分野で活躍されている講師を招く。聖書科授業でのカリキュラムも新たな改革をしながら、いのち、人権、平和、道徳教育などのさまざまなテーマでキリスト教主義教育を推進していく。 ●対面での全校礼拝を維持しつつ、休校期間中はオンラインでの礼拝の形を取り入れ、生徒・保護者・教員にとって親しみやすい礼拝のあり方を考えていく。 ●生徒たちがより自主的な運営ができるような礼拝にするため、きめ細やかな指導を行っていく。

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【読書・図書館教育】	自己評価	A
目標	読書生活の推進と実態把握／図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動の展開／読書・図書館教育に特化した学校行事の実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●設備が整った図書館を活用するだけでなく、読書記録の推奨、国語科・読書科による授業前の 10 分間読書の実施を通じて、読書習慣の定着を図っている。 ●読書科の授業を通じ、図書館の利用、情報の獲得・整理・活用・表現の方法や技術を学習している。 ●各省庁や法人・企業などから案内のある募集型のレポートや作文などについて読書科が窓口となり、広く生徒に情報を伝達し、文芸コンクールを実施している。各コンクールに応募した生徒の中から今年度も複数の受賞者を輩出している。 ●生徒アンケート問 20「学校生活を通じて読書に親しみ、図書館をよく利用している。」の生徒の肯定的評価が 74.2%（昨年度 75.0%）となり、昨年度と同等の高い評価を維持することができた。昨年度から導入した電子書籍の利用、コロナ禍によって中止していた 1 年生の大学図書館見学・利用の再開、複数の教科の図書館を利用した授業展開等が評価されたと考えられる。 ●生徒アンケート問 21「読書に関するプログラムが充実している。」の肯定的評価は 93.9%、保護者アンケート問 24「中学部は、図書館を活用した総合的な学習やプログラムを展開している。」の肯定的評価は 95.5%となり、図書館利用の取組が生徒・保護者双方から高い評価を受けた。		
今後の方策	●コロナ禍に代表されるように、社会の変化によって変化を求められる場面が今後も続くことが予想されるが、そのような中でも、本校の伝統的な読書科教育の根幹を変えることなく、生徒に対するアプローチを継続していく。		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【芸術教育】	自己評価	A＋
目標	音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の豊かな感性の育成／音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の自己表現能力の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●通常の音楽・美術の授業に加えて、秋に行われる文化祭では、各クラスが合唱を披露する音楽コンクール、授業で制作した全校生徒の作品を展示する美術展などを開催している。 ●生徒が本物の芸術に触れることができる機会をつくるために、学外の施設に演奏や劇を鑑賞しに行く、演奏家や楽団などに学校公演を依頼するなどして、芸術鑑賞会を毎年おこなっている。 ●生徒アンケート問 24「音楽・美術などの芸術活動を通して、表現する楽しさを味わい、豊かな心が育っている。」の肯定的評価は 79.7%（昨年度 75.9%）、保		

	護者アンケート問 27「中学部は、音楽・美術を中心とした芸術教育により、生徒の感性と表現力を育成している。」の肯定的評価は 89.4%（昨年度 78.4%）、教員アンケート問 30「中学部は、音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の豊かな感性を育成している。」の肯定的評価は 97.3%（昨年度 97.1%）となり、生徒、保護者、教員の三者すべてで昨年度と同程度または昨年度以上の評価となった。コロナ禍のために昨年度実施できなかった学外施設での芸術鑑賞会の実施や三学年そろっての音楽コンクールの実施、音楽コンクール・文化祭の保護者参加等、感染症対策を工夫したうえで例年に近い形で各行事をおこなったことが今年度の評価につながったと考えられる。
今後の方策	●今後も新型コロナウイルス感染症の対策は必要であると考えられるが、通常授業、行事ともに感染症対策を工夫したうえで鑑賞活動や表現活動の機会を多く設け、生徒の自己表現力の育成に取り組む。

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【キャンプ・体験的学習】	自己評価	A
目標	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●キャンプ･体験的学習は中学部が長年大切にしてきた伝統的行事の 1 つである。1 年生時は入学直後の千刈オリエンテーションキャンプ（2 泊 3 日）、2 年生時は岡山県の無人島でのキャンプ（4 泊 5 日）、3 年生時は修学旅行（4 泊 5 日）と、各学年で特徴的な校外宿泊行事を設けている。しかし、今年度はコロナ禍のため、宿泊を伴う行事の実施形態の変更を余儀なくされた。 ●1 年生時の飛鳥での校外学習、2 年生時の奈良での校外学習、3 年生時の修学旅行では、事前に生徒に行動計画を練らせ、班行動を中心とした自主研修を組み入れている。 ●今年度の 1 年生のオリエンテーションキャンプは昨年度同様、宿泊を伴わない学校内での 3 日間のプログラム、2 年生の青島キャンプは希望者のみの 1 泊 2 日のキャンプとなり、どちらも例年と実施形態が大きく異なった。3 年生は通常どおり九州地方で 4 泊 5 日の修学旅行をおこなった。生徒アンケート問 26「キャンプや体験的学習が学校全体で丁寧に準備され実施されている。」の肯定的評価は 82.3%（昨年度 85.3%）となり昨年度とほぼ同等の高評価であった。また、保護者アンケート問 29「中学部はキャンプや体験的学習を丁寧に準備・実施している。」の肯定的評価は 86.6%（昨年度 72.9%）、教員アンケート問 32「中学部は、キャンプ・体験的学習により、生徒の創意工夫や協力する心を養っている。」の肯定的評価が 100%（昨年度 85.3%）となり、保護者と教員どちらも昨年度よりも評価が高かった。青島キャンプの宿泊再開、通常通りの修学旅行の実施が評価されたものであると考えられる。一方で、生徒アンケート問 26 の肯定的評価が昨年度から 3 ポイント下がり、否定的評価が 17.7%（昨年度 14.7%）に微増している。これは 1 年生オリエンテーションン行事が通常どおりおこなえていないことや、2 年生青島キャンプが学年全員参加の行事ではなく希望者のみの実施となったこと、通常の 4 泊 5 日よりも少ない泊数で実施されたこと等が影響していると考えられる。		
今後の方策	●キャンプ・体験的学習の意義は、生徒・保護者・教員の誰もが認めるところである。次年度もコロナ禍の影響により様々な変更が余儀なくされるであろうが、新型コロナウイルス感染予防対策、体調管理等の安全対策をこれまで以上に検討し、キャンプ・体験学習の実施を継続していく。		

評価項目 【テーマ】	関西学院共通項目 【関西学院における一貫教育を含めた総合学院としての観点】	自己評価	A＋
目標	スクールモットー“Mastery for Service”の認知度・共感度を知る。／スクールモットー“Mastery for Service”の認知度向上を図る。／学校の教育が、関西学院の使命である「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながっていることを再認識してもらう。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●関西学院の建学の精神を表すスクールモットー“Mastery for Service”の理念の共有と実践について、生徒・保護者・教員に対して共通の質問を提示し、回答を得た。生徒アンケート問 28、保護者アンケート問 31、教員アンケート問 34 の「私は、関西学院のスクールモットーが“Mastery for Service”であることを知っている。」の肯定的評価は、生徒が 99.2％(昨年度 98.1％、一昨年度 98.0％)、保護者が 99.1％(昨年度 98.5％、一昨年度 97.2％)、教員が 100％(昨年度 100％、一昨年度 100％)という結果で、ここ 3 年間で最も高い数値となった。生徒と保護者の数値が高いことが他校にはない中学部の特色であるといえる。スクールモットー“Mastery for Service”が生徒・保護者・教員の共通の理念として定着している。生徒アンケート問 29、保護者アンケート問 32、教員アンケート問 35 の「私は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”に共感している。」の肯定的評価も、生徒は 93.2％(昨年度 90.7％、一昨年度 91.7％)、保護者は 99.0％(昨年度 97.8％、一昨年度 97.3％)、教員は 100％(昨年度 97.0％、一昨年度 100％) という結果で、この 3 年間で最高の数値をとなった。生徒アンケート問 30、保護者アンケート問 33、教員アンケート問 36 の「中学部は、『“Mastery for Service”を体現する世界市民』の育成につながる教育を実践している。」の肯定的評価は、生徒が 87.2％(昨年度 85.3％、一昨年度 84.0％)、保護者が 92.4％(昨年度 86.9％、一昨年度 88.9％)、教員が 91.8％(昨年度 81.8％、一昨年度 91.2％)とここ 3 年間で最高の数値をとなった。いずれの数値もすべて肯定的評価が高くなっているという結果は、中学部がスクールモットーを基に教育活動を展開していることを、生徒・保護者・教員が共通に理解し、それを体現していると評価できる。		
今後の方策	●スクールモットー“Mastery for Service”の理念の共有と実践についての肯定的評価を継続するために、理念を教育活動で展開することを常に心がけ、授業や行事等において展開する。		

評価項目 【テーマ】	その他 【コロナ禍への対応】	自己評価	A
目標	コロナ禍への適切な対応		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	●感染状況が悪化したときにすぐにオンライン授業に切り替えられるように備えた。 ●感染状況に応じてオンライン授業を実施しているが、今年度は休校や学年閉鎖を余儀なくされることが少なく、実際には 2 学期中旬に 1 度、3 年生に対して実施しただけであった。生徒アンケート問 31「コロナ禍の中でも、学習に十分に取り組めた。」の肯定的評価が昨年度の 68.0%から 82.2%に上がっているのは、オンライン授業の提供時間が少なかった、即ちほとんど学校で通常授業が行えた、ということの表れではないかと考えられる。 ●行事に関しては今年度も感染予防対策を講じながら、その制約の中でもできるだけ通常に近い形を模索した。宿泊を伴うものでは、3 年生の修学旅行を通常		

	と同じく 4 泊 5 日で実施、2 年生の青島キャンプを 1 泊ではあるが現地のテント泊で実施した。また文化祭や体育大会など、例年なら多くの保護者が来校される行事は、昨年度までは来校禁止や厳しい入場制限を付けて行っていたが、今年度は特に最終学年である 3 年生の保護者を優先しながら、昨年度よりも多くの方が来校できるように工夫を行った。 ●授業以外の日常生活では、2 学期終了時までは昼食時の黙食のケアを、管理人による校舎内のドアノブや手すりなどの消毒を現時点でも継続するなどの対応を行った。 ●オンライン授業や行事等、コロナ禍への対応に対する取組に対する評価は保護者アンケートでは問 34「コロナ禍についての学校の対応は総じて適切であった。」の項目からうかがえるが、肯定的評価は昨年の 83.4%から今年度は 88.9%に上がっている。しかし、同じ質問項目の教員アンケート問 37 では、逆に肯定的評価は 100%から 94.5%に下がっている。これは、コロナ禍の状況になれてきた教員が、オンライン事業などをはじめ、もっとできることがあるのではないか、と自問していることの表れではないかと考えられる。
今後の方策	●オンライン授業への取組は、今後も質の向上をめざし、また、展開のしかたを検討していく。 ●行事については、開催意義、生徒・保護者のニーズを考えながら、安全面に配慮しつつも、できるだけ通常に近い形で行えるよう検討していく。

（自己評価）

A＋=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

●昨年度比、生徒・保護者・教員すべてにおいて多数の項目に関し肯定的評価が増加した。これはコロナ禍の状況変化にともない従来の教育活動に戻すための学校の努力が一定の成果を挙げたものと考えられる。

●授業研究の実施など授業に関する教員の意識について強い肯定が大きく増加した点が特筆される。今後、生徒が学力や体力の伸長の手応えを一層感じ取ることができるよう、教員による自己研鑽が継続・充実する学校でありたい。そのための環境整備も必要であると捉えている。

●ホームルームや生徒会などの自治活動を通した自主性の意識が生徒間で向上した。第三者評価で触れられているように、生徒間の協力が様々な場面で促され、学校を創りあげていく主体的意識が更に向上することの重要性が示唆される。

●スクールモットーに対する生徒と保護者の認知が依然完全ではなく、学校の教育理念の浸透を図っていく必要性が改めて浮かびあがった。キリスト教主義に基づく人間教育・全人教育を推進すべく、引き続き生徒の成長のために教職員と保護者で思いと力を合わせていきたい。

2022 年度の評価をふまえて 2023 年度に予定している評価項目、テーマ等

●評価項目については、①教育課程・学習指導、②生徒指導、③保健管理、④保護者との連携、⑤キリスト教主義教育の実践、⑥特色ある教育の実践、⑦関西学院共通項目、⑧その他の 8 項目を継続して取り上げる。

2022 年度のアンケート調査（生徒調査、保護者調査、教員調査）の結果を見ると、教員が各評価項目に関わる活動に積極的に取り組んでいることが読み取れるとともに、これらの活動が実を結んでいることがうかがえます。このことは、生徒の学校満足度の高さや中学部の教育活動および教育環境への肯定的評価、生徒が自身の成長を実感していることなどに端的にあらわれています。また、保護者は主には自身の子どもの姿を見て学校を評価すると考えられますが、保護者の中学部に対する評価も総じて高いことがうかがえます。以上は総評ですが、次に各評価項目についてコメントしたいと思います。

教育課程・学習指導については、生徒調査の結果から、生徒が中学部の授業や補習の機会があることを高く評価しているとともに、生徒の 7 割以上が“自分の学力が伸びていると感じている”と回答していることが分かります。このことは、教員間で教育課程の全体構造の理解を促進していることや生徒の学力・体力を多面的に把握しようと努めていること、各教科の特性に応じて授業を工夫するなどの、先生方の連携や個々の教員の努力の賜物であると考えられます。また、生徒調査の結果から、生徒は中学部の課外活動が充実しているとともに、課外活動と正課（学習）の両立ができていると考えていることがうかがえます。

生徒指導については、自主自立の精神の育成がテーマとしてあげられていますが、「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている」という質問（問 10）に「強くそう思う・どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合が 8 割近くであることから、生徒に自主自立の精神を育む機会は十分に確保されていると思われます。また、生徒調査の結果から、生徒は中学部における問題行動への対応を肯定的に評価している様子がうかがえます。このことについては、教員間で生徒の問題への対応についての共通理解が高まっていることが大きく関係していると推察されます。

保健管理については、心身の健康管理と怪我・急病発生時の対応がテーマとしてあげられていますが、生徒調査の結果から、いずれについても生徒が肯定的な評価をしていることが分かります。心身の健康管理と怪我・急病発生時の対応は、生徒の命にもかかわることであることから、今後も現在の状態を維持していくことが求められます。

保護者との連携については、保護者アンケート調査の結果から、これまで以上に強まっていることがうかがえます。保護者からの協力は、待っているだけでは得られないと思われます。そのため、このたびの結果は、①中学部の教育が保護者の方々に理解・支持されていることや、②中学部の先生方が保護者の方々との信頼関係を築いたこと、などによってもたらされたと考えられます。

キリスト教主義教育の実践については、キリスト教主義教育の理念が中学部全体で共有されているとともに、生徒のキリスト教的人間理解を育成する機会が設けられており、これらの実践を生徒や保護者が高く評価していることが見受けられます。中学部を訪問させていただいた際に、礼拝を見学させていただきましたが、教員のお話がとても興味深く、その話に生徒が熱心に耳を傾けている様子がとても印象的でした。

特色ある教育の実践については、その重要性は今後ますます高まっていくものと考えられます。先行き不透明な社会において、自ら課題を見つけ、自ら課題を解決する力は、これまで以上に強く求められると推測されるからです。中学部では、以前から読書科等の授業を通じて、このような力の育成を生徒に育んできたと考えられますが、その実践が生徒や保護者から高く評価されていることがうかがえます。また、生徒調査や保護者調査、教員調査の結果から、音楽・美術を中心とした芸術教育が、生徒の豊かな感性を育んでいることが分かります。さらに、キャンプ・体験学習が、丁寧に準備・実施されていると生徒や保護者から評価されているとともに、それらの機会が生徒の創意工夫や協力する心を育んでいることが、教員調査の結果からうかがえます。生徒間の協力性については、いじめなどの問題行動を抑制する上でも重要であることが、いくつかの研究から明らかになっています。そのため、生徒指導上の観点からも、これらの教育をより一層充実させていくことが求められます。

スクールモットーである“Mastery for Service”の理念については、生徒・保護者・教員調査の結果から、広く共有されているとともに、共感されていることが見受けられます。また、「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながる教育実践も高く評価されていることがうかが

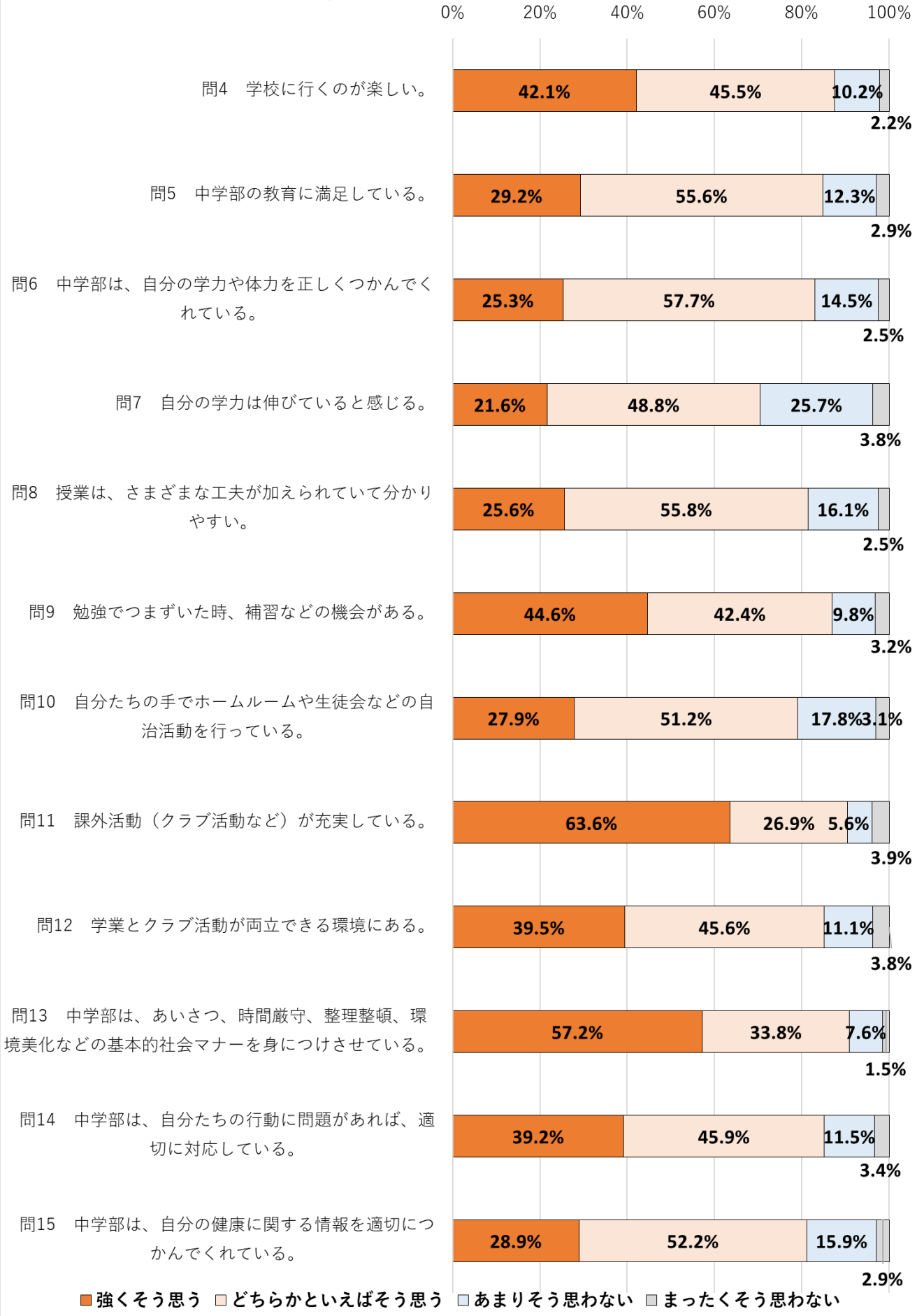
えます。
　コロナ禍への対応については、「コロナ禍の中でも、学習に十分に取り組めた」と回答した生徒の割合が８割を超えていることから、中学部の対応に生徒は満足していると言えます。その理由としては、オンライン授業が少なかったことや生徒がオンライン授業に慣れたことのほかに、中学部においてコロナ禍への対応体制が充実・発展したことが考えられます。

　どの評価項目においても、概ね肯定的評価が高く、しかも昨年度よりも数値が伸びています。これは中学部の先生方が、昨年度の学校評価をしっかりと分析し、反省すべきところは反省し、良かったところはさらに研究を深め、努力を重ねた結果だと思います。
　教育課程・学習指導の項目において、BYOD を次年度に実施することのようですが、ご存知のように、これには業務効率の向上や情報端末に関するコスト削減など、多くのメリットがあります。反面、情報セキュリティリスクの増加や教員のプライバシー保護の問題などデメリットもあります。便利なものには必ずリスクがあることを忘れず、運用していただきたいと思います。
　生徒指導の項目では、基本的社会マナーについて教員の肯定的評価が、昨年度 67.6%から今年度 81.1%とかなりの伸び率を示しています。これは生徒指導体制を見直し、教師団が共通理解を深め、同じベクトルで指導にあたった結果だと考えます。これからもこの体制を維持していただきたいと思います。
　関西学院のスクールモットーは“Mastery for Service”です。このことを知っていますかの設問に肯定的評価が教員は 100%であるのは、当然ですが、生徒と保護者は 100%ではありません。“Mastery for Service”は入学するにあたって知っておかなければならない必須事項です。今後、これが 100%になるように努めてください。
　　次年度からは with コロナの時代となるでしょう。様々な制限は今よりさらに緩められます。しかし、コロナウイルスが消滅したわけではありません。生徒たちの安全・安心を担保しつつ、中学部らしい教育活動が展開されることを切に希望します。

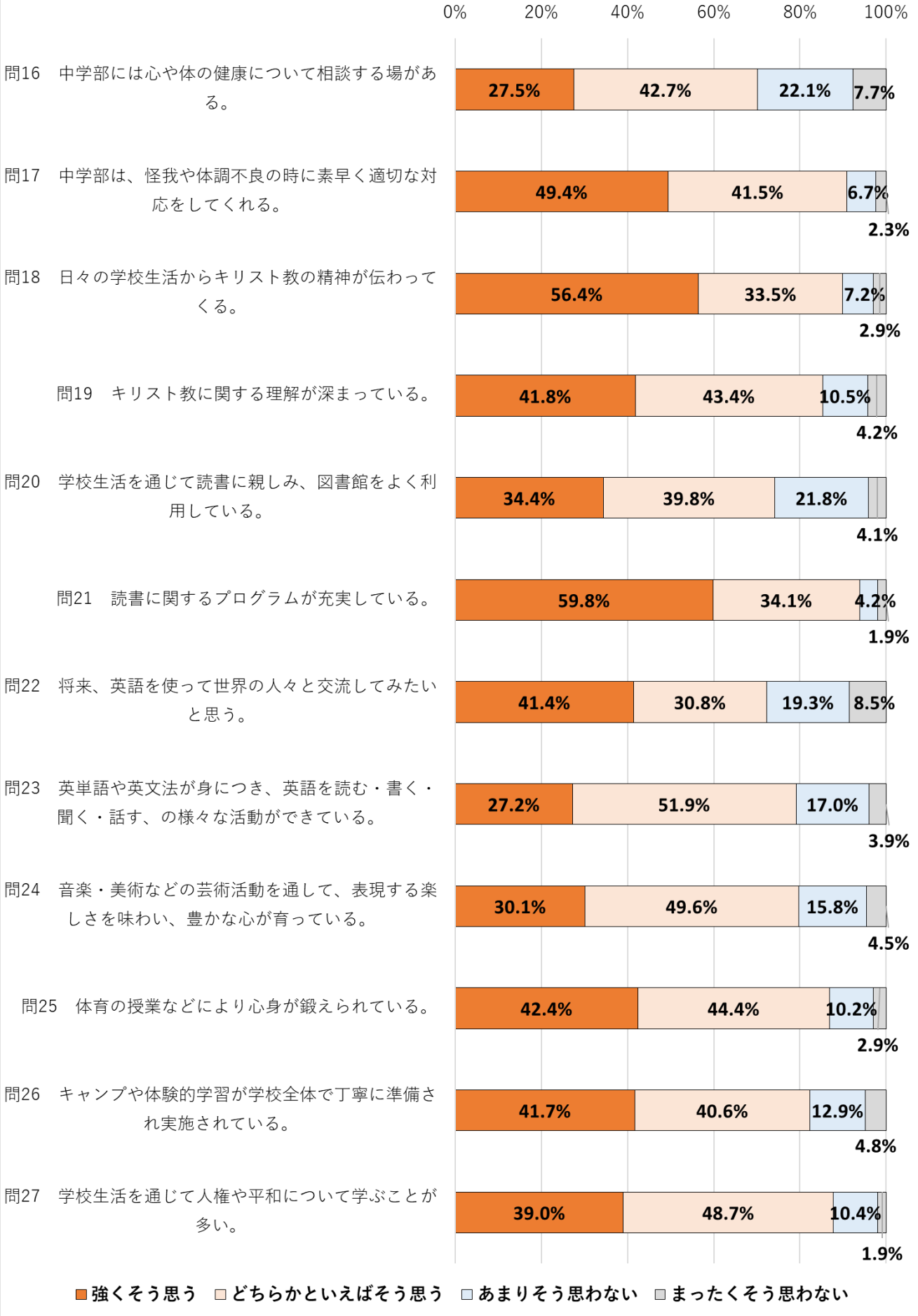
2022 年度学校評価

2022年度　学校評価アンケート集計結果

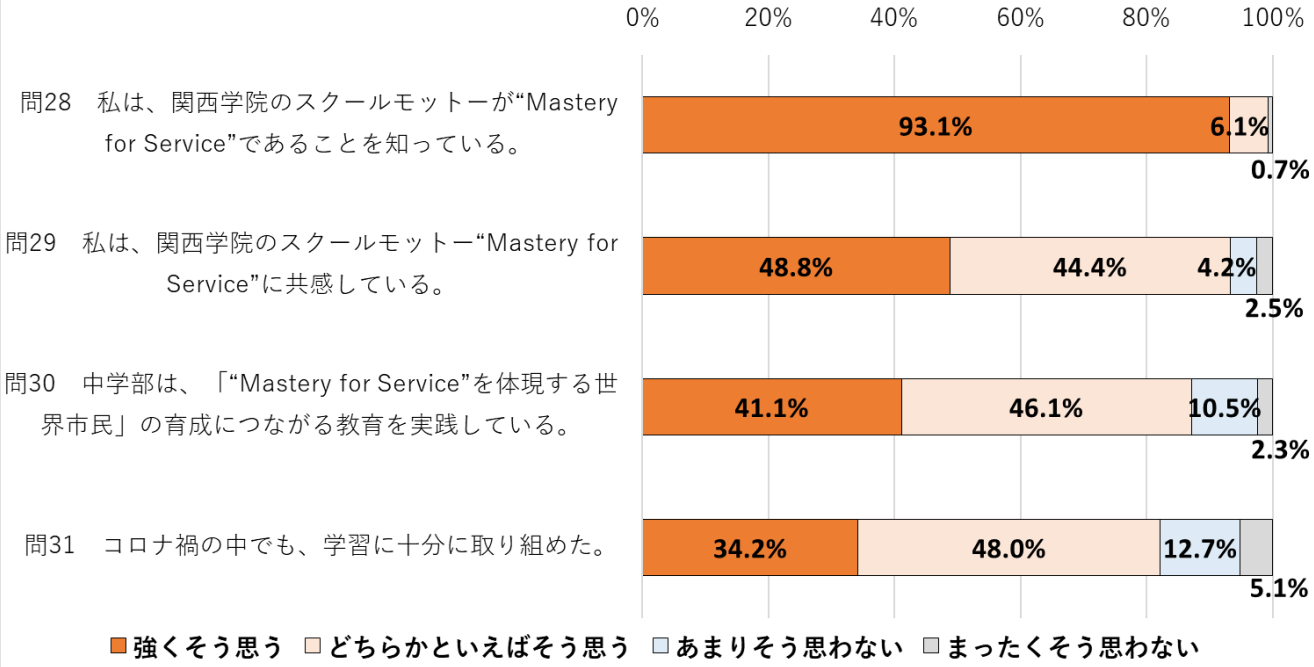
中学部・生徒（回答率 92.6%　回答684人/対象739人）



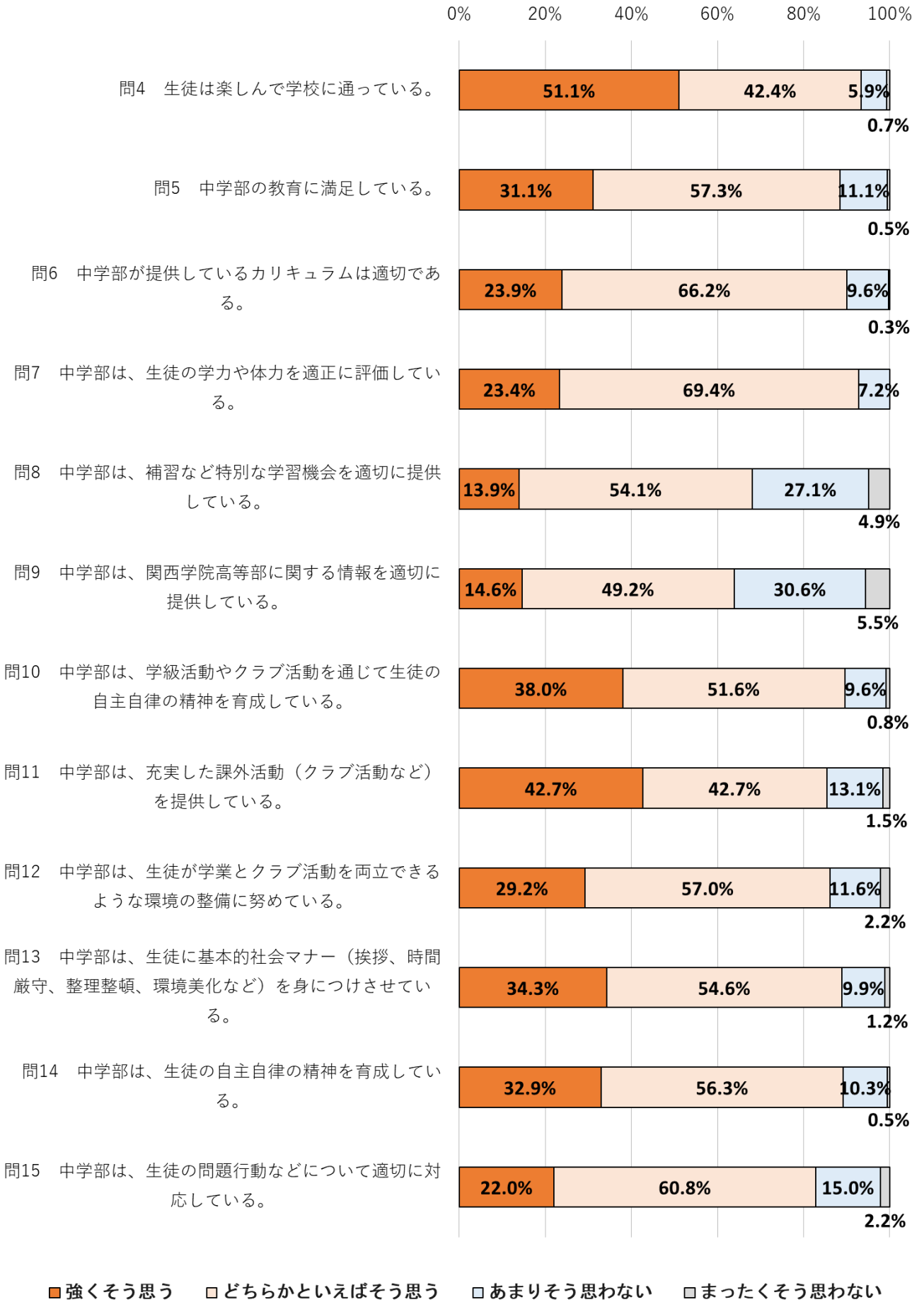
2022年度　学校評価アンケート集計結果
中学部・生徒（回答率 92.6%　回答684人/対象739人）



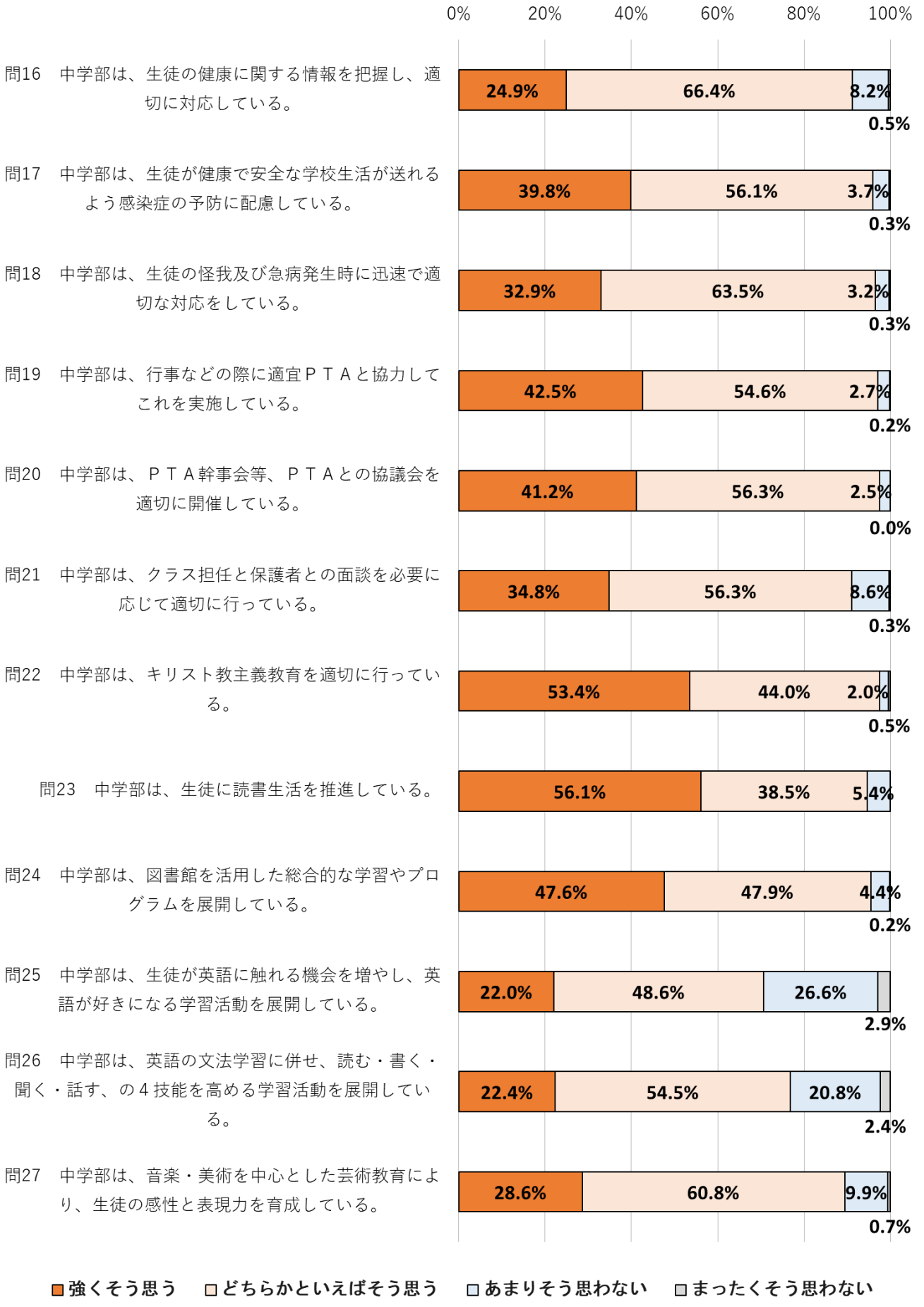
2022年度　学校評価アンケート集計結果
中学部・生徒（回答率 92.6%　回答684人/対象739人）



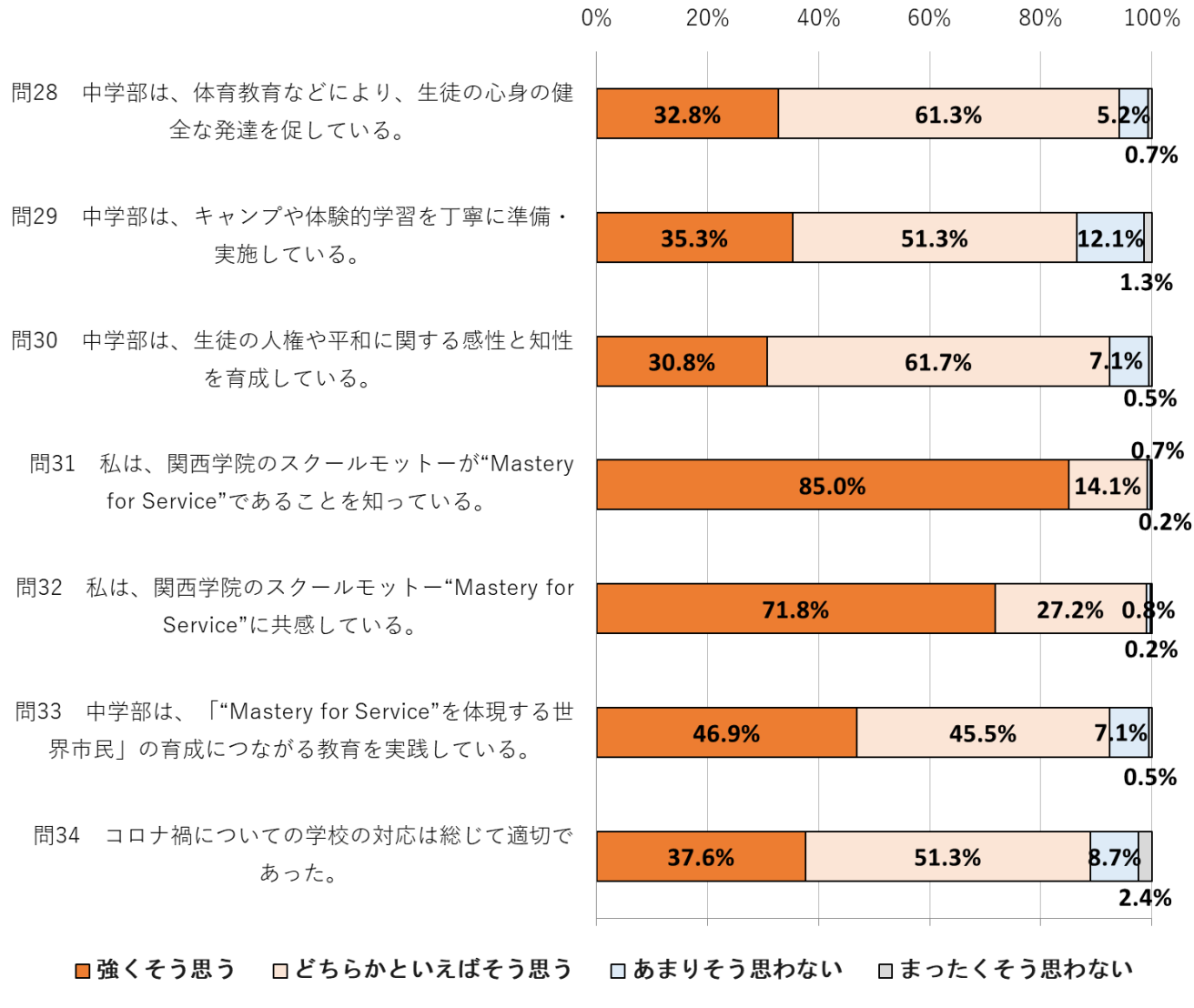
2022年度　学校評価アンケート集計結果
中学部・保護者（回答率 80.5%　回答595人/対象739人）



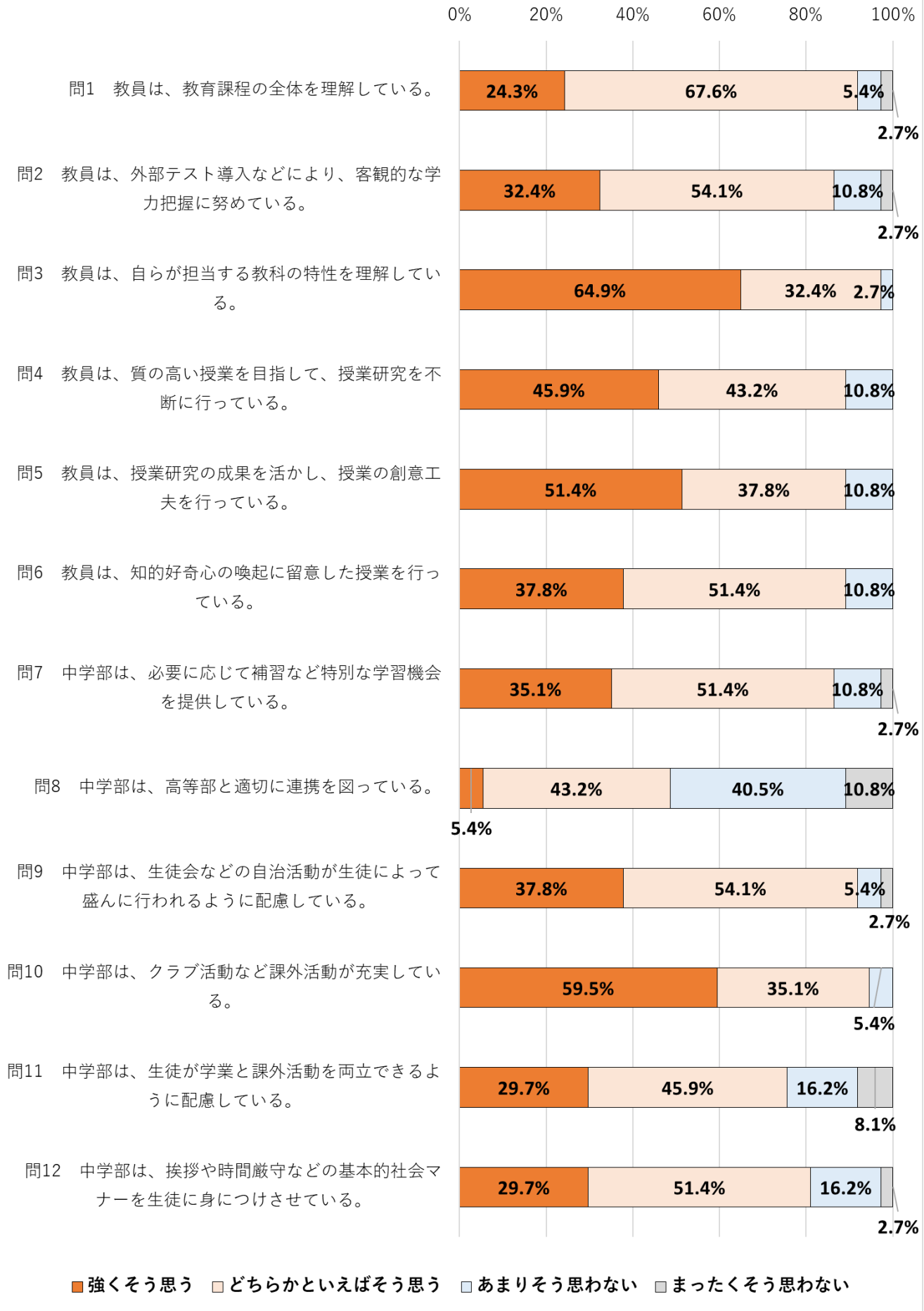
2022年度　学校評価アンケート集計結果
中学部・保護者（回答率 80.5%　回答595人/対象739人）



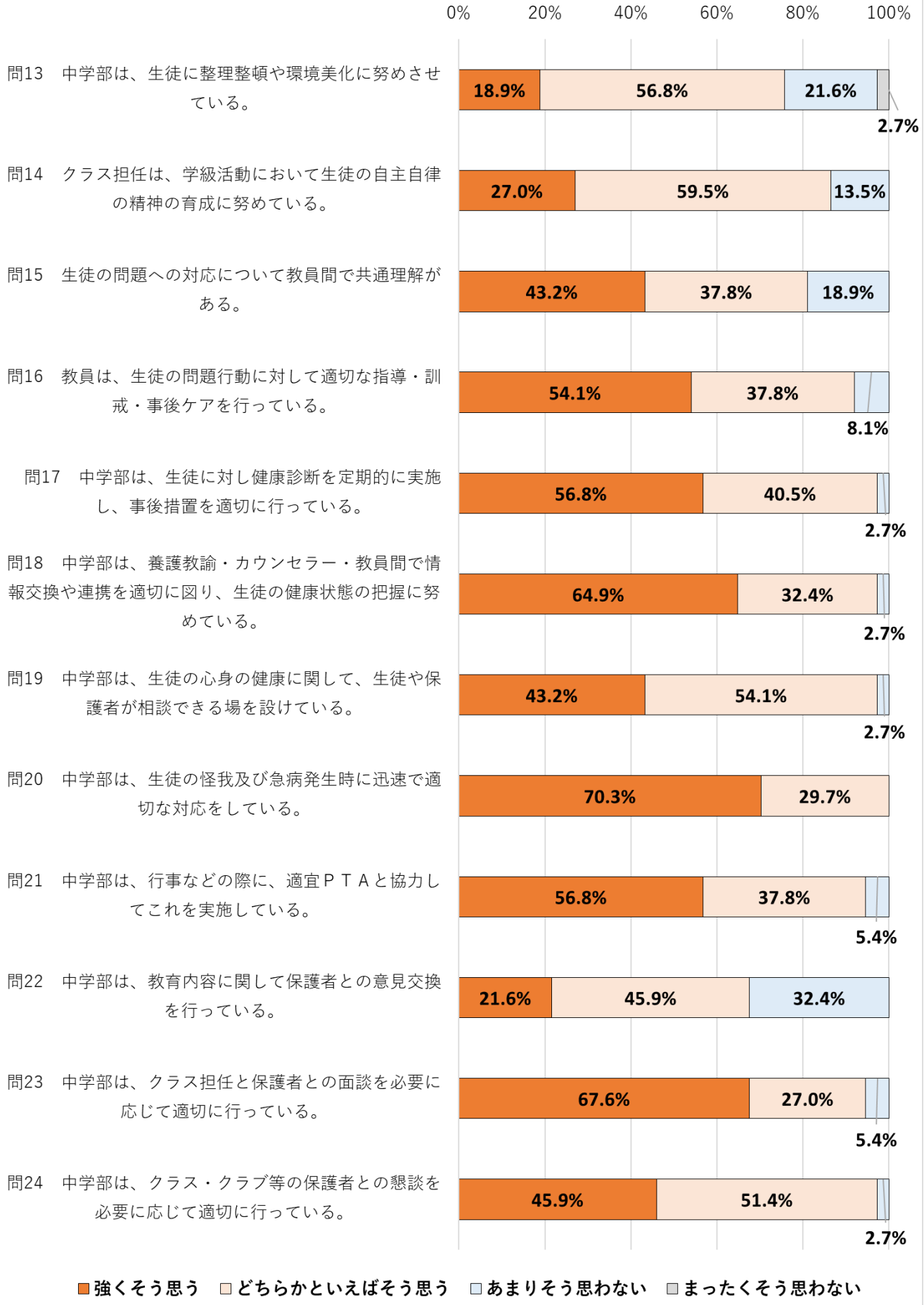
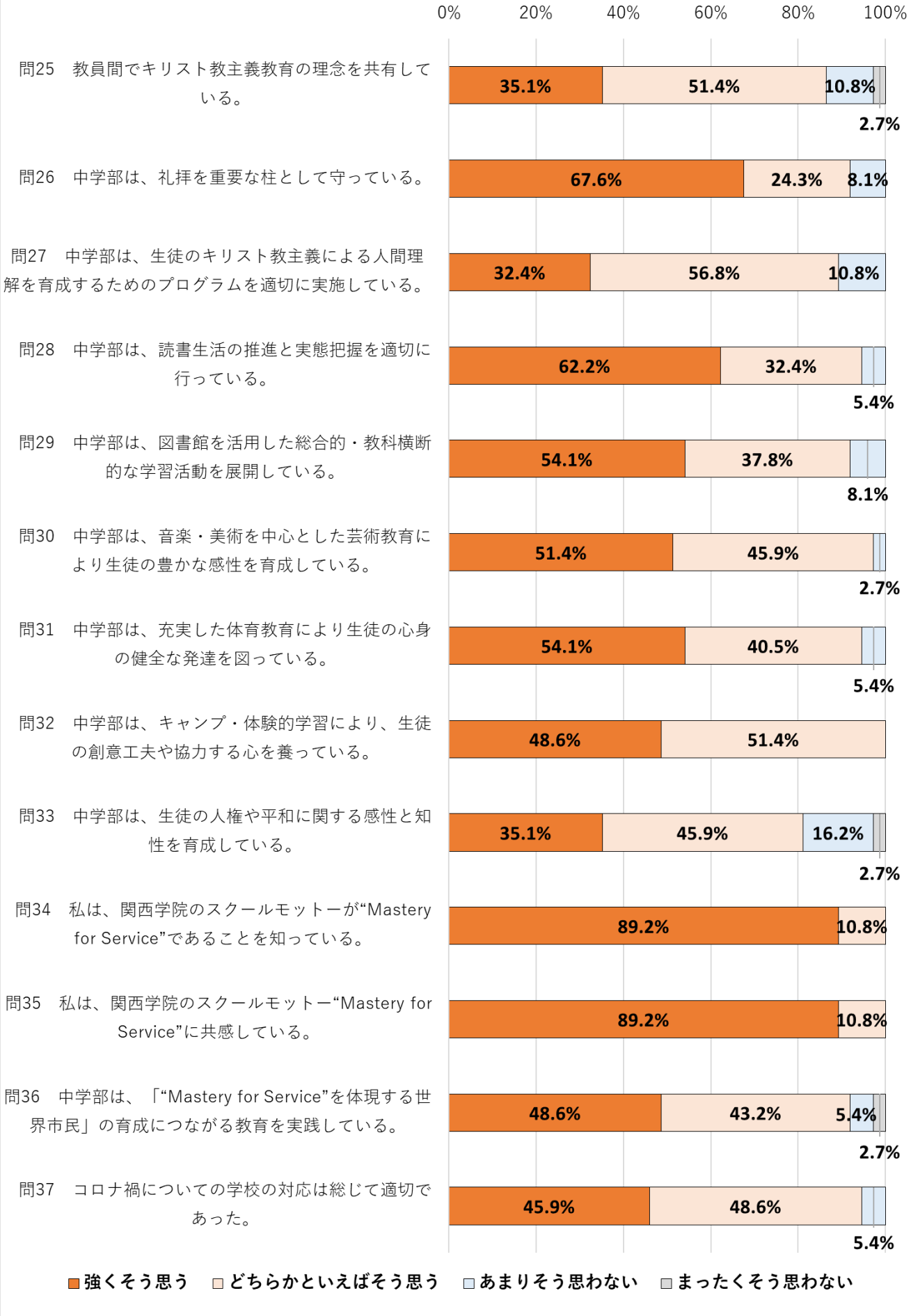
2022年度　学校評価アンケート集計結果
中学部・保護者（回答率 80.5%　回答595人/対象739人）



2022年度　学校評価アンケート集計結果
中学部・教員（回答率 92.5%　回答37人/対象40人）



2022年度　学校評価アンケート集計結果
中学部・教員（回答率 92.5%　回答37人/対象40人）



2022年度　学校評価アンケート集計結果
中学部・教員（回答率 92.5%　回答37人/対象40人）